

『男性の性腺機能低下症ガイドライン2022』 15年ぶりの改訂
内分泌学会, メンズヘルス医学会 作成
(加齢男性性腺機能低下症候群 (LOH症候群) 診療の手引き)

「第2章 中枢におけるテストステロンの産生と生理作用 川戸執筆」

Folia
Endocrinologica
Japonica

—日本内分泌学会臨床重要課題—

男性の性腺機能低下症ガイドライン2022

作 成 一般社団法人 日本内分泌学会

一般社団法人 日本メンズヘルス医学会

第1章 テストステロンの産生と生理作用

テストステロンTは精巣 Leydig 細胞で賛成される。その他では海馬、筋肉、脂肪でも賛成される。血中においてTはSHBG結合型.(35~75%)、アルブミン結合型と遊離型とを合わせて生物活性を有するbioavailable testosteroneと呼ばれる。.....。SHBG結合型は強く結合しており、生物活性はない。加齢によってSHBG型が漸増するので、総Tが変化しなくてもbioavailable Tは相対的に減少すると考えられる。.....